



園・所の先生方を対象とした研修会を開催しています!

乳幼児教育支援センターでは、県内の園・所の先生方を対象とした乳幼児期の教育・保育に関する様々な研修会を開催しています。研修の企画に当たって、関係団体や各市町から推薦を受けた研修モニターから意見をお聞きしたり、「乳幼児期の教育・保育の充実に関する調査」の結果を確認したりして、園・所の先生方のニーズに応じた研修会を開催できるよう努め、著名な講師もお招きしています。

本年度は、新型コロナウイルスの影響で研修会の開催が難しい状況が続いていましたが、徐々に、オンライン(Zoom)による受講方法も取り入れ、研修会を開催し始めています。

個別の研修会の開催については、随時、お知らせしていきますので、ご確認ください。また、広島県教育委員会・幼児教育のホームページにも、今後の開催予定を更新していきます。



乳幼児教育支援センターHP
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>



園・所の教育・保育の質の向上、特別な支援を必要とする子供への関わり、保護者対応や子育て支援、小学校との連携・接続、園内研修の充実など、様々なテーマの研修を計画しています。

自然と触れ合う中で、小さな発見や偶然の出会い...



「教育・保育実践事例集(平成30年3月広島県教育委員会)」から、いつもの散歩コースで、側溝を流れる水の流がいつもと違うことに気付き、立ち止まったA児(2歳10か月)と保育者の関わりについての事例を紹介します。



A児は、側溝に泡を立てながら流れていく水が気になったのか、じっと水面を見つめている。「いっぱいお水が流れているね」と声をかけると、「前はお水なかったのに…」と、流れる水をじっと見ながら独り言のようにつぶやく。保育者は、「そうだね。前はお水なかったね」と言葉を返す。

「お水が気持ちよさそうだから、ちょっと触ってみようかな」と、保育者がかがんで水に触り、「わ!冷たくて気持ちいいよ!」と声をかけると、A児は保育者の横で道に腹這いになって、水に手をつける。想像以上の冷たさと流れる水の勢いにびっくりしたのか、すぐに水から手を

離れたが、今度はゆっくりと手を入れて、感触を確かめているようである。その後で、「うん、冷たくて気持ちいい」と答える。

A児が腹這いのまま顔を上げて「みんなー!、お水が冷たくて気持ちいいよ!」と友だちに声をかけると、一緒に散歩をしていた同じクラスの子供が近付いてきてA児の横に並んで腹ばいになって、手に水を入れる。隣の子供同士で顔を見合わせ、「冷たいね」、「気持ちいいね」等と言葉を交わしながら、心ゆくまで水と親しんでいる。



「遊び 学び 育つひろしまっ子!」教育・保育実践事例集 p40-41 事例15「お水、冷たいね」より



自然と触れ合う中での保育は、子供にとって多くの発見やたくさんの偶然の出会いをもたらします。一方で、変化に富む自然の中での保育は、安全管理もとても大切です。保育者は、いつもとは違う変化(発見!)に気付いたA児の姿を見守り、安全に十分配慮しながら、気付きを支える言葉を返しています。コロナ禍の状況においても、子供達が自然と触れ合う教育・保育を大切にしていきたいですね。

幼児教育アドバイザー訪問の一場面より・・・

～遊びの中の子供の学びに気付くカンファレンス～

乳幼児教育支援センターの幼児教育アドバイザー訪問事業では、アドバイザーが園・所へ訪問し、保育参観や保育について話し合う機会（保育カンファレンス）を設定していただいています。

園・所での保育カンファレンスは、子供たちの姿の見取り、環境構成や援助のあり方、園内研修など、様々なテーマで話し合われており、どのカンファレンスにおいても「子供主体の教育・保育」や「遊びの中の子供の学びや育ち」ということを大切にされているように思います。例えば、このような流れです。

保育参観

今年度はコロナ感染拡大防止の観点から、プール遊びの実施が難しい園・所が多く有るようです。このような中、季節ならではの遊びを大切にしたいという先生方の願いのもと、多くの園・所が様々な工夫を凝らした「水遊び」を行ってられるようです。その園庭での「水遊び」の様子を参観した後に・・・。



保育カンファレンスの様子

密を避けるために、複数のたらい（水入り）を用意して、園庭のあちこちに置いてみたけど、そこで、いつもよりも集中して遊ぶ子供が多かったのは予想外だった…どうしてかな？

1歳児は、水のいろいろな感触や音に気付いて、楽しむ経験をしている子供が多かったように感じたわ。

3歳のAちゃんはペットボトルからペットボトルへ水を何度も移し替えていたけれど、ついには、こぼさないように入れることができていたわ。

このような保育カンファレンスを通して、私たちは先生方と子供達の学びや育ちを共有し、保育における疑問や課題について気付きをお伝えしながら、一緒に考えることで、これからの保育につなげていただきたと考えています。

今後もアドバイザー訪問をきっかけに、園・所の先生方に保育のおもしろさや奥深さをさらに感じてほしいと願っています。



必要以上に周りに気を取られることなく、自分の興味・関心に応じてじっくり遊びを楽しむことができたからじゃないかな…

4歳児のBちゃんとC君は、たらいや水たまりの間を巡って、時々水に手をつけて何かを確かめているようだった。あちこちの水温の違いに気が付いて確かめていたんだと思うわ。

（アドバイザーから・・・）

先生方が気付かれたように、密を避けるために整えた環境が、偶然にも子供達の学びを支えることにつながったのですね。

その環境の中で遊ぶ姿から、子供達が何を学んでいるのかを丁寧に見取っていくことがとても大切だと思います。同じ遊びをしているように見えても、一人一人に違う学びがありますね。3歳児のAちゃんのエピソードでは、試行錯誤を繰り返してやり抜く力の育ちが見えていますね。

さらに、4歳児のBちゃんとC君の学びから、次はどうなっしてほしいという願いを持ちますか？先生方が子供の姿から気付いたことを元に、ねらいを持って、環境を再構成したり、よりよい援助を考えたりすることが明日の保育へつながることになりますね。

【発行元及び連絡先】 広島県乳幼児教育支援センター

〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局（東館6階）

TEL 082 (513) 4978 FAX 082 (212) 3331

広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>

